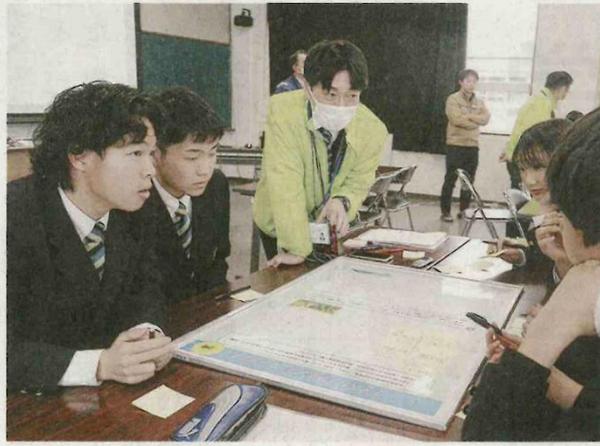


# 環境科学科2年生 地域の自然保全をテーマに 高山国道事務所と学習会

## 地域の自然 保存へ学習会 飛騨高山高生と国道事務所



地域にある自然の保全について話し合う生徒たち。飛騨高山高山田キャンパスで

高山市山田町の飛騨高山高校山田キャンパスで27日、地域の自然の保存について考える学習があった。同校と国土交通省高山国道事務所などで整備する生物の生息空間「ビオトープ」が、完成20周年を迎えたことを記念して実施した。

同校の環境科学科の2年生は、同事務所や建設コンサルタント会社の建設環境研究所（東京都）と、中部縦貫自動車道の高山西インターチェンジ付近にビオトープを運用。貴重な動植物の保存に努めている。この日は27人の生徒が活動を振り返りつつ、身近な自然の変化を議論。田んぼが減って家が増えていることや、へびやホタルを見かけなくなったことが話題に挙

がった。松山元輝さん(17)は「生き物の多様性の保存には、自然を守っていきたい」と話していた。(平田志苑)